

厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)
「将来の医療需要を踏まえた外来及び在宅医療の提供体制の構築のための研究」
総合研究報告書(令和4年度～令和6年度)

研究代表者 今村 知明(奈良県立医科大学 教授)

研究要旨

日本の高齢者人口の増加に伴い、在宅医療と介護保険サービスの整備は急務である。持続可能な医療提供体制の確保に向け、外来医療に関して機能分化・連携についての議論が活性化しており、加えて在宅医療と外来医療を合わせた入院外医療における効率的な医療機能の分化・連携の推進も議論されている。

本研究班では、全国の医療機関における外来医療の提供状況を検証するために、3つの分担班に細分化してすすめた。①高齢社会において欠かすことのできない重要なサービスであるリハビリテーションについて、奈良県の後期高齢者医療制度加入者の保険診療データを用いて、リハビリ患者の実態把握と在宅医療患者のアクセシビリティ分析のための予備的な検討を行った。②令和4年度から開始された外来機能報告制度の報告データを用いて、病院、診療所、地域医療支援病院、特定機能病院などの観点から重点外来や重点医療機関を含む外来医療の実態を把握した。③地域医療構想策定ガイドラインにおいては退院患者が行き場のない状態を回避しつつ、入院医療から在宅医療への移行を地域で推進することを促していることから、令和4年度の実態情報収集に続いて令和5年度ではヒアリング先を「在宅療養支援病院(在支病)」と、その連携施設などに絞り、療養病床等入院医療から在宅医療への移行の取組の実態について、情報収集を行った。

研究分担者

野田龍也(奈良県立医科大学 准教授)
西岡祐一(奈良県立医科大学 助教)
次橋幸男(奈良県立医科大学 博士研究員)
赤羽 学(国立保健医療科学院 部長)
中西康裕(国立保健医療科学院 主任研究官)
佐藤拓也(東京大学医学部附属病院 病院診療医)
明神大也(浜松医科大学 准教授)

研究協力者

柿沼倫弘(国立保健医療科学院 主任研究官)
町田宗仁(国立保健医療科学院)
山口佳小里(国立保健医療科学院)
森井康博(国立保健医療科学院)

A. 研究目的

本研究では、在宅医療と外来医療においてNDB・KDB等のレセプトデータや介護DB、外来機能報告等を用いて、各地域における医療需要を推計し、効率的かつ効果的な入院外医療の提供体制について検討を行うことを目的とする。

B. 研究方法

本研究班は3つの分担班に分けて研究を進め、班会議を2回開催し、研究の進捗状況の管理、調整を行いながら進めた。研究の実施体制及び研究内容は図1の通りである。

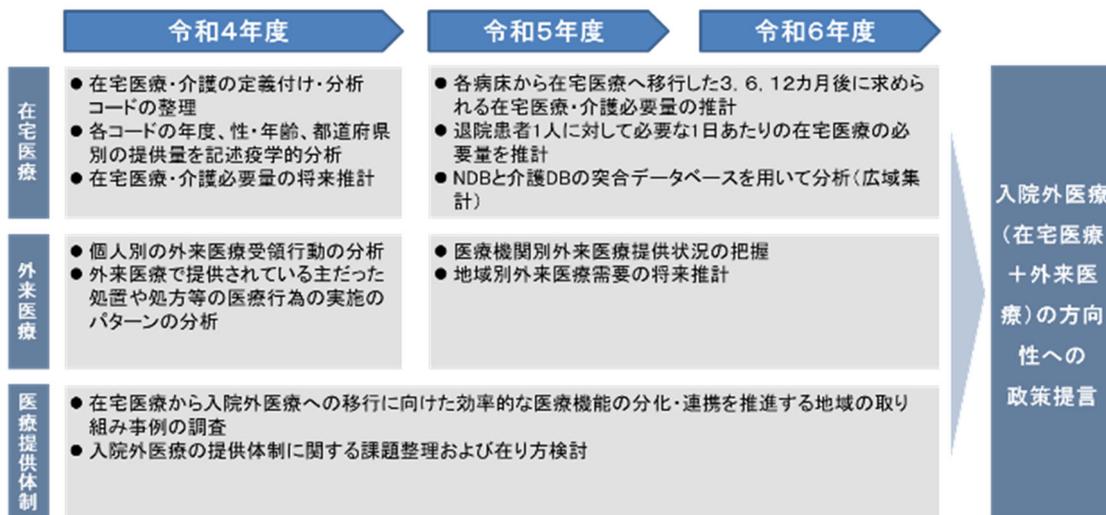


図1 研究の実施体制および研究計画

(倫理面への配慮)

DPC や NDB のデータの利用にあたっては、過去にこれらのデータ分析の実績があり、熟練した研究者がデータ分析にあっている。また、国から個人データの提供を受ける際には、国にて匿名化処置を行い、個人が識別できないようにしたデータの提供を受けている。

研究の実施に当たっては必要に応じて奈良県立医科大学の医の倫理委員会の審議を受け、承認を得たうえで研究を行っている。

また各分担研究者においても、必要に応じて各機関の倫理審査委員会の審議を受け、承認を得たうえで研究を行っている。

C. 研究結果

本研究によって以下の成果を得た。詳細については、各年度の分担研究報告書を参照されたい。

【令和4年度】

・在宅医療班

2019 年度の訪問診療料及び／又は往診料が算定された性・年齢階級別の在宅実患者数及びレセプト件数を分析した。奈良県全体の在宅実患者数及びレセプト件数はそれぞれ 15,042 人、104,958 件で、年齢階級別では 90 歳以上が最も多かった。

また、二次医療圏別の在宅実患者数は、それぞれ奈良：4,646 人、西和：3,888 人、東和：2,491 人、中和：3,210 人、南和：807 人であった。

奈良県全体の将来推計では、85-89 歳、90 歳以上の患者数の増加が顕著であり、2040 年まで総数の増加は続き県全体では最大で 26,312 人（基準年である 2019 年から見て 1.75 倍）となった。

二次医療圏別の将来推計では、二次医療圏別の人口密集度合いを大、中、小に分けて推計結果を示した。南和医療圏（人口密集度合い：小）を除いた四つの医療圏において、2040 年まで在宅患者数は増加する傾向が示されたが、東和医療圏（人口密集度合い：中）では増加の傾向が奈良・西和・中和医療圏（人口密集度合い：大）よりも緩やかであった。

人口密集度合いが大と小の二次医療圏における代表的自治体（市町村）の将来推計では、二次医療圏別で見た場合に将来推計が増加の傾向であっても、圏域内の市町村では減少を示す例があった。逆に、南和医療圏では 2040 年に向かってほとんど横ばいとなる傾向が示されたが、市町村別では増加の傾向を示す市が含まれていた。

・外来医療計画班

「各患者の総受診回数に占める、最も受診した

医療機関での受診回数の平均割合」は、60%-90%の間で分布していた。15歳未満と70歳から85歳人口は、男女ともに割合が低かった。また、20歳から75歳までの平均割合は、男性が女性より高かった。90歳以上の平均割合は、他の年齢階級と比較して、男女ともに上昇した。

同様の定義を用いて、都道府県別、医療機関の病床規模別に平均割合の分析を行った。平均割合は、概ね診療所が50%程度を占めていた。地域別には、大都市圏を有する東京都や神奈川県は、診療所の割合が高い一方、山間部等を有する高知県は診療所が占める割合が低く、病院の占める割合が相対的に高かった。

・入院外医療の提供体制班

療養病床等での入院医療から在宅医療への移行を進めている現場の取組について、都市部の事例3件、過疎地等農山漁村地域の事例4件を取材した。急性期病棟と同様に療養病棟においても、入院直後から、疾病の治療見込みや退院可能性時期について、関係するスタッフで療養計画を議論し作成する病院は、積極的に退院に結びつけている様子が伺えた。

【令和5年度】

・在宅医療班

リハビリテーション資源（病床、専門職数）の少ない圏域ではリハビリテーションの提供が少ない傾向がみられ、外来でのリハビリテーション提供においてはアクセスの低さがリハビリテーション提供の少なさと関連する傾向がみられた。アクセシビリティ分析では、レセプト件数よりも患者数に基づく分析、全区域の受療割合よりも二次医療圏域別あるいは市町村別の受療割合を用いる分析が現状に近い結果が得られることがわかった。今後、二次医療圏別にアクセシビリティを分析する際の留意点も明らかとなった。

・外来医療計画班

12,109医療機関から外来機能報告があり、その

内訳は無床診療所10、有床診療所5,172、病院6,927医療機関で、さらにそのうち特定機能病院は86、地域医療支援病院681であった。分析の結果、紹介受診重点外来が占める割合が再診の25%という条件が、初診の40%という条件よりも満たさない医療機関が多いこと（図3）、その紹介受診重点外来を項目別に分析するとCTやMRIをはじめとする高額等の医療機器・設備を使用する外来が占める割合が大きいことが分かった。

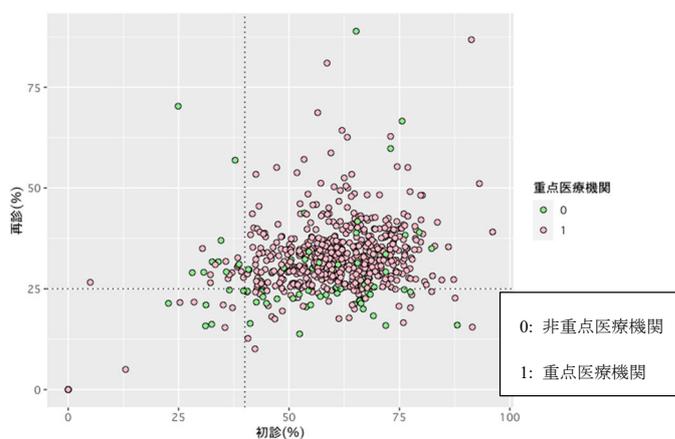


図3 地域医療支援病院の重点外来の割合

・医療提供体制班

「入院された高齢者の患者が、早期退院して、在宅医療に円滑移行できるための取り組み」については、入院直後からの多職種連携による退院後の生活イメージを共有、再入院がすぐ出来る体制とした退院、「在宅療養支援病院の届出のための人員配置等の苦勞」については、医師を配置するので精一杯、「どのような『素養を持つ人材』が同病院にいることが望ましいか。」については、総合診療を担う医師、患者を引継ぐ側の事情が分かる人、「『素養を持つ人材』を養成するための研修とは」については、医師は往診業務が出来るための研修、などの回答を得た。

【令和6年度】

・在宅医療班

1) いずれの種類のリハビリテーション料も2020年度(COVID-19流行下)において外来で減少

していた。将来推計値は基準年により異なり、COVID-19 流行下（2020 年度）で算定単位数が少なかった外来においては、2020 年度基準とした場合に、将来推計全体が低く見積もられた。

2) 実績シナリオでは、奈良医療圏が最も距離が短く、南和医療圏が最も距離が長いことが分かった。過疎医療圏では 16km 以上の移動が必要なケースが 7.7%存在したが、他の医療圏ではゼロだった。理想シナリオでは距離が改善されたが、16km 以上の移動が必要なケースがわずかに存在した。

・ 外来医療計画班

各種紹介受診重点外来の実施割合が紹介受診重点医療機関となるか否かに強く関わっており、作成した機械学習モデルにより大多数の紹介受診重点医療機関を予測することが可能であった。外来機能報告では CT や MRI 等において、初診・再診と同日に実施されたもののみが集計されている。集計されていないそれらの診療行為の規模について確認したところ、15-30%程度が定義上集計されていないことが分かった。

・ 医療提供体制班

20 都道府県に所在する 43 施設より回答を得ることができた（回答率 24.7%）。

D. 考察

・ 在宅医療班

2019 年における奈良県の在宅医療実患者数は 15,042 人で、90 歳以上の割合が最も多かった。在宅患者数は 2040 年まで 1.75 倍に増加する見込みであった。医療圏別では、南和医療圏を除き増加傾向にあるが、市町村によって減少する地域も見られた。

リハビリテーションの提供は、医療資源とアクセシビリティに影響を受け、患者数に基づくアクセシビリティ分析が近い結果を示していた。

2020 年度の外来リハビリ料は減少した。過疎医療圏での移動距離の改善が必要であることが分

かった。

リハビリ提供量が過少な地域では、専門職の確保が必要である。患者数を基にした分析が有効であることが示唆された。

・ 外来医療計画班

受診回数の平均割合は、地域および年齢によって差異が見られる。診療所の受診率は大都市圏で高かった。紹介受診重点外来の割合が基準を満たしていない医療機関が多く、高額医療機器の使用割合が大きかった。紹介受診重点外来の実施が医療機関の選定に影響しており、約 15-30%の診療行為が未集計であることが確認された。

重点医療機関は基準未達の箇所が多く、地域役割を考慮した慎重な設定が必要である。都道府県によって設定状況に大きな差があると考えられる。

・ 医療提供体制班

療養病床から在宅医療へのスムーズな移行を図るための取り組みが進行中で、関係者による退院計画が積極的に行われていた。退院支援の多職種連携が進められ、在宅療養支援のための人材研修が検討されていることも明らかとなった。

E. 結論

本研究の成果は、在宅医療と外来医療において NDB・KDB 等のレセプトデータ、外来機能報告等を用いて医療需要を推計し、効率的で効果的な入院外医療の提供体制の検討に役立つものと考えられる。

F. 健康危険情報

なし（非該当）

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Shinichiro Kubo, Tatsuya Noda, Tomoya Myojin, Yuichi Nishioka, Saho Kanno, Tsuneyuki Higashino, Masatoshi Nishimoto, Masahiro Eriguchi,

- Kenichi Samejima, Kazuhiko Tsuruya & Tomoaki Imamura. Tracing all patients who received insured dialysis treatment in Japan and the present situation of their number of deaths. *Clinical and Experimental Nephrology*. 2022 Apr; 26(4): 360-367.
2. Fukushima Hidetada, Nishioka Yuichi, Kasahara Kei, Asai Hideki, Sonobe Shota, Imamura Tomoaki, Muro Shigeo, Nishio Kenji. Sensitivity and specificity analyses of COVID-19 screening protocol for emergency medical services: a STARD-compliant population-based retrospective study. *Medicine*. 2022 Oct; 101(40): e30902.
 3. Tomoya Myojin, Tatsuya Noda, Shinichiro Kubo, Yuichi Nishioka, Tsuneyuki Higashino, Tomoaki Imamura. Development of a New Method to Trace Patient Data Using the National Database in Japan. *Advanced Biomedical Engineering*. 2022 Nov;11: 203-217.
 4. Kaori Yamaguchi, Yasuhiro Nakanishi, Viroj Tangcharoensathien, Makoto Kono, Yuichi Nishioka, Tatsuya Noda, Tomoaki Imamura, Manabu Akahane. Rehabilitation services and related health databases, Japan. *Bulletin of the World Health Organization*. 2022 Nov;100(11): 699-708.
 5. H Kobayashi, S Fukuda, R Matsukawa, Y Asakura, Y Kanno, T Hatta, Y Saito, Y Shimizu, S Kawarasaki, M Kihara, N Kinoshita, H Umeda, T Noda, T Imamura, Y Nishioka, T Yamaguchi, S Hayashi, T Iguchi. Risks of Myocarditis and Pericarditis Following Vaccination with SARS-CoV-2 mRNA Vaccines in Japan: An Analysis of Spontaneous Reports of Suspected Adverse Events. *Therapeutic Innovation & Regulatory Science*. 2023 Mar; 57(2): 329-342.
 6. 竹下沙希、西岡祐一、明神大也、峯昌啓、野田龍也、今村知明. レセプト情報における傷病名・診療開始日を用いた名寄せロジック. *医療情報学*. 2023 Mar;42(5): 217-225.
 7. Koshiro Kanaoka, Yoshitaka Iwanaga, Katsuki Okada, Satoshi Terasaki, Yuichi Nishioka, Michikazu Nakai, Daisuke Kamon, Tomoya Myojin, Tsunenari Soeda, Tatsuya Noda, Manabu Horii, Yasushi Sakata, Yoshihiro Miyamoto, Yoshihiko Saito, Tomoaki Imamura. Validity of Diagnostic Algorithms for Cardiovascular Diseases in Japanese Health Insurance Claims. *Circulation Journal*. 2023 Mar; 87(4): 536-542.
 8. Takako Mohri, Sawako Okamoto, Yuichi Nishioka, Tomoya Myojin, Shinichiro Kubo, Tsuneyuki Higashino, Sadanori Okada, Yasuhiro Akai, Tatsuya Noda, Hitoshi Ishii, Tomoaki Imamura. Risk of Lactic Acidosis in Hospitalized Diabetic Patients Prescribed Biguanides in Japan: A Retrospective Total-Population Cohort Study. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 2023 Mar; 20(7): 5300.
 9. 中西康裕、今村知明、赤羽学. 医療・介護レセプトデータを用いた政策研究の実際. 特集: 公衆衛生分野での観察研究による新たなアプローチ —データベース研究によるエビデンスの創出に向けて—. *保健医療科学*. 2023 Oct;72(4): 293-302
 10. 西岡祐一、明神大也、野田龍也、今村知明. NDB を用いた糖尿病のある人の平均死亡年齢等, リアルワールド解析. *糖尿病・内分泌代謝科*. 2023 Apr;56(4):415-445.
 11. Saki Takeshita, Yuichi Nishioka, Yuko Tamaki, Fumika Kamitani, Takako Mohri, Hiroki Nakajima, Yukako Kurematsu, Sadanori Okada, Tomoya Myojin, Tatsuya Noda, Tomoaki Imamura, Yutaka Takahashi. Novel subgroups of obesity and their association with outcomes: a data-driven cluster analysis. *BMC Public Health*. 2024 Jan; 24: 124.
 12. 今村知明、西岡祐一 ほか. 第 8 章 保健・

医療・福祉の制度 01 社会保障の概念、02 医療制度、03 福祉制度。監修：山本玲子 編著：熊谷優子。新編 衛生・公衆衛生学。2024 Mar;178-198.

13. Yuichi Nishioka, Emiri Morita, Saki Takeshita, Sakura Tamamoto, Tomoya Myojin, Tatsuya Noda, Tomoaki Imamura. Exact-Matching Algorithms Using Administrative Health Claims Database Equivalence Factors for Real-World Data Analysis Based on the Target Trial Emulation Framework. Health Services and Outcomes Research Methodology. 2024 Dec; 24: 427–439.

2. 学会発表

1. 1. 2022年06月02日～2022年06月04日 (大阪府、大阪国際会議場) 第64回日本老年医学会学術集会 アドバンス・ケア・プランニングの実施経験に関するWEB質問紙調査 中西康裕、次橋幸男、早坂章、西岡祐一、今村知明、赤羽学。

2. 2022年07月23日～2022年07月24日 (WEB/兵庫県、神戸国際展示場、神戸国際会議場) 第4回日本在宅医療連合学会大会 在宅訪問診療を受けた実患者数とその提供量の推移: レセプト情報・特定検診等情報データベース (NDB) を用いた全年齢層における全国データの分析 次橋幸男、赤羽学、明神大也、中西康裕、久保慎一郎、西岡祐一、野田龍也、今村知明。

3. 2022年10月07日～2022年10月09日 (山梨県、YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館 /WEB) 第81回日本公衆衛生学会総会 日本の医療データベースから算出された季節性インフルエンザの致死率と重症化率 野田龍也、明神大也、西岡祐一、今村知明。

4. 2022年10月07日～2022年10月09日 (山梨県、YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館 /WEB) 第81回日本公衆衛生学会総会 NDBと死亡情報の連結にあたっての課題の検討 明神大也、西岡祐一、野田龍也、今村知明。

5. 2022年10月07日～2022年10月09日 (山梨県、YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館 /WEB) 第81回日本公衆衛生学会総会 後期高齢者における口腔健診と死亡の関連 辻本雄大、明神大也、西岡祐一、今村知明。

6. 2022年10月07日～2022年10月09日 (山梨県、YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館 /WEB) 第81回日本公衆衛生学会総会 介護医療院創設前後における医療療養病床・医療区分1を退院した患者の療養場所の変化 次橋幸男、西岡祐一、中西康裕、柿沼倫弘、野田龍也、赤羽学、今村知明。

7. 2022年10月07日～2022年10月09日 (山梨県、YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館 /WEB) 第81回日本公衆衛生学会総会 KDBを用いた医療区分1入院患者の介護・医療介入の現状と予後の解析 竹下沙希、西岡祐一、次橋幸男、中西康裕、柿沼倫弘、久保慎一郎、明神大也、赤羽学、野田龍也、今村知明。

8. 2022年10月07日～2022年10月09日 (山梨県、YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館 /WEB) 第81回日本公衆衛生学会総会 大規模レセプトデータを用いた在宅医療需要の将来推計手法の確立 中西康裕、西岡祐一、次橋幸男、柿沼倫弘、野田龍也、今村知明、赤羽学。

9. 2022年10月07日～2022年10月09日 (山梨県、YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館 /WEB) 第81回日本公衆衛生学会総会 大規模レセプトデータを用いた脳梗塞治療に関する地域医療提供体制の検討 柿沼倫弘、中西康裕、西岡祐一、野田龍也、今村知明、赤羽学。

10. 2022年11月02日～2022年11月06日 () The Gerontological Society of America (GSA) 2022 Annual Scientific Meeting Forecasting the Regional Distribution of Home Care Patients Using Big Data of Insurance Claims in Japan: 2015 to 2045 Yasuhiro Nakanishi, Yuichi Nishioka, Yukio Tsugihashi, Tomohiro Kakinuma, Tatsuya Noda, Tomoaki Imamura, Manabu Akahane.

- 11.2022年11月04日～2022年11月06日（岡山県、岡山コンベンションセンター）第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 大規模レセプトデータを用いた後期高齢者を対象としたリハビリテーション医療の需要に関する圏域別将来推計 山口佳小里、中西康裕、西岡祐一、次橋幸男、野田龍也、北村哲郎、城戸顕、今村知明、赤羽学。
- 12.2022年11月17日～2022年11月21日（北海道、札幌コンベンションセンター）第42回医療情報学連合大会（第23回日本医療情報学会学術大会）クレームデータベース利活用の現場から：できること・できないこと・意外にできたこと 野田龍也。
- 13.2022年11月17日～2022年11月21日（北海道、札幌コンベンションセンター）第42回医療情報学連合大会（第23回日本医療情報学会学術大会）2019年と2020年における日本の外来受診患者数の比較。菅野沙帆、野田龍也、町田宗仁、西岡祐一、明神大也、久保慎一郎、今村知明。
- 14.2022年11月30日～（Web）INNOVCARE Webinars Forecasting the Regional Distribution of Home Care Patients Using Big Data of Insurance Claims in Japan: 2015 to 2045 Yasuhiro Nakanishi, Yuichi Nishioka, Yukio Tsugihashi, Tomohiro Kakinuma, Tatsuya Noda, Tomoaki Imamura, Manabu Akahane.
- 15.2023年04月21日～2023年04月23日（東京都、東京国際フォーラム）第31回日本医学会総会 NDB データや分析から見た地域医療構想 今村知明。
- 16.2023年05月11日～2023年05月13日（鹿児島県、城山ホテル鹿児島）第66回日本糖尿病年次学術集会 健康診断におけるHbA1c高値の受診者の医療機関受診までの日数に関する分析 明神大也、西岡祐一、森田えみり、小泉実幸、紙谷史夏、中島拓紀、樽松由佳子、岡田定規、久保慎一郎、野田龍也、今村知明、高橋裕。
- 17.2023年06月01日～2023年06月03日（愛知県、名古屋国際会議場）第96回日本内分泌学会年次学術総会 レセプトビッグデータを用いた食習慣による骨粗鬆症リスクへの影響の解析 中島拓紀、西岡祐一、森田えみり、小泉実幸、紙谷史夏、樽松由佳子、久保慎一郎、明神大也、野田龍也、今村知明、高橋裕。
- 18.2023年06月24日～2023年06月25日（新潟県、朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)）第5回日本在宅医療連合学会大会 大規模レセプトデータを用いた看取りを支える在宅医療に関連する地域性、患者及び医療機関側の要因分析 次橋幸男、赤羽学、中西康裕、西岡祐一、柿沼倫弘、今村知明。
- 19.2023年07月15日～2023年07月16日（東京、ハイアットリージェンシー東京）Diabetes and Insulin Resistance (DESIRE) Conference 2023 Elucidating the pathophysiology of diabetes and obesity using administrative claims database Yuichi Nishioka, Saki Takeshita, Emiri Morita, Miyuki Koizumi, Fumika Kamitani, Takako Mohri, Hiroki Nakajima, Yukako Kurematsu, Sadanori Okada, Tomoya Myojin, Tatsuya Noda, Tomoaki Imamura, Yutaka Takahashi.
- 20.2023年10月31日～2023年11月02日（茨城県、つくば国際会議場）第82回日本公衆衛生学会総会 NDB オープンデータ等を利用したリハビリテーション需要の将来推計 安福祐一、西岡祐一、山口佳小里、赤羽学、今村知明。
- 21.2023年10月31日～2023年11月02日（茨城県、つくば国際会議場）第82回日本公衆衛生学会総会 後期高齢者の口腔状況が死亡に与える影響 辻本雄大、明神大也、西岡祐一、今村知明。
- 22.2023年10月31日～2023年11月02日（茨城県、つくば国際会議場）第82回日本公衆衛生

学会総会 入院外来患者数の将来推計 平石達郎、西岡祐一、明神大也、今村知明.

23.2023年10月31日～2023年11月02日(茨木県、つくば国際会議場) 第82回日本公衆衛生学会総会 特定健康診査・後期高齢者健康診査の階層化基準とその後の心筋梗塞発症の関連 玉本咲楽、西岡祐一、竹下沙希、森田えみり、明神大也、野田龍也、今村知明.

24.2023年10月31日～2023年11月02日(茨木県、つくば国際会議場) 第82回日本公衆衛生学会総会 新型コロナウイルス感染症の影響による受療行動の変化 馬淵主基、西岡祐一、明神大也、野田龍也、今村知明.

25.2023年10月31日～2023年11月02日(茨木県、つくば国際会議場) 第82回日本公衆衛生学会総会 医療・介護突合レセプトを用いた百寿者及び非百寿者の死亡前医療・介護費の比較 中西康裕、次橋幸男、西岡祐一、野田龍也、明神大也、今村知明、赤羽学.

26.2023年10月31日～2023年11月02日(茨木県、つくば国際会議場) 第82回日本公衆衛生学会総会 死亡前30日以内に開始された在宅医療が死亡前の医療費及び介護費に与える影響 次橋幸男、中西康裕、西岡祐一、野田龍也、明神大也、赤羽学、今村知明.

27.2023年10月31日～2023年11月02日(茨木県、つくば国際会議場) 第82回日本公衆衛生学会総会 第8次医療計画に向けての医療指標例の作成と公表について 今村知明、野田龍也、中西康裕、西岡祐一、明神大也、柿沼倫弘、赤羽学.

28.2023年11月22日～2023年11月25日(兵庫県、神戸ファッションマート(六甲アイランド)) 第43回医療情報学会連合大会 疾患定義の実際～少しの違いが大きな違いになるクレームデータベースの落とし穴～ 野田龍也、明神大也、西岡祐一、今村知明.

29.2024年10月29日～2024年10月31日(北海

道、札幌コンベンションセンター 他) 第83回日本公衆衛生学会総会 特定健康診査・後期高齢者健康診査の基準値と心筋梗塞発症との関連 玉本咲楽、西岡祐一、森田えみり、明神大也、野田龍也、今村知明.

30.2024年10月29日～2024年10月31日(北海道、札幌コンベンションセンター 他) 第83回日本公衆衛生学会総会 終末期患者に提供された在宅医療に係わる評価指標の検討 次橋幸男、中西康裕、西岡祐一、野田龍也、明神大也、赤羽学、今村知明.

31.2024年10月29日～2024年10月31日(北海道、札幌コンベンションセンター 他) 第83回日本公衆衛生学会総会 KDB データを活用した訪問診療への地理的アクセシビリティ分析 森井康博、中西康裕、西岡祐一、次橋幸男、野田龍也、明神大也、今村知明、赤羽学.

32.2024年10月29日～2024年10月31日(北海道、札幌コンベンションセンター 他) 第83回日本公衆衛生学会総会 NDB オープンデータを用いたリハビリテーション将来需要推計: 新型コロナ流行の影響. 山口佳小里、中西康裕、森井康博、赤羽学.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし